【第670号】
発　行　日　2026年９月16日
発行責任者　喬木村公民館長
林　　司
編集責任者　公民館広報部長
池田　英明
印　　刷　龍共印刷株式会社

たかぎ公民館報

題字：真浄寺書道会　下岡　優佳
写真：喬木カメラクラブ　原　東彦　「夕暮れ」

歳のつどい

いて、「二十歳のつどい」の式典と祝賀会がおこなわれました。平
５３名が出席しました。式典では、佐藤村長より「『当たり前』の反
しい。」というお話がありました。１組２組の代表の意見発表では、「コ
自分で引き受けていくその自由と責任。」「シンプルなことを当たり
しての抱負を堂々と発表する凛々しい姿がありました。
域の食材で作られたサンドイッチやパウンドケーキなどやノンアル
中で行われました。そして今回の実行委員会企画のメインである「小
１時間弱小学校を巡った後中学に集合し、暑い中でしたが校舎内を
巡りは、きっと記憶に残るものとなるでしょう。



実行委員のみなさん

実行委員長	大平快斗
副実行委員長	中島温雅
委員	河西美咲
	横前万葉
	大平琉光薫

学校見学

第一小







第二小







中学校





祝 令和８年度 二十

令和８年８月１５日（土）、喬木村福祉センター多目的ホールにお
成１７年４月２日から平成１８年４月１日生まれの皆さん６８名中
対は、『ありがとう』です。是非とも親や周りの方に感謝を伝えてほ
ロナの時代に生きた私たちが手にしたのは自分の人生を自分で選び、
前にできる大人になりたい。」とまっすぐ前を向いて述べ、二十歳と
午後の祝賀会は、実行委員会のみなさんが中心となり進行し、地
コールの飲み物で、３名の恩師の皆さんとともに和やかな雰囲気の
中学校の校舎巡り」に出かけました。はじめは第一・第二小に分かれ、
巡りました。当時の先生や友達との思い出などを語りながらの校舎

式典の様子







祝賀会の様子







１組代表あいさつ　小池凛奈さん



本日は、わたしたちのために、このような盛大な二十歳のつどいを開いていただき、誠にありがとうございます。佐藤村長をはじめご来賓の皆様、そして今日まで私たちを育ててくださった地域の皆様に、心より御礼申し上げます。

私たちは、この自然豊かな喬木村で生まれ育ちました。満天の星を眺め、田んぼや山を駆けまわった日々。ふと思い出すのは、立派な思い出よりも、他愛ない工夫ばかりです。通学路の学び坂をわざと外れて、山や畑に抜け道を見つけたこと。給食の苦手なものを「好き」と言ってくれる友だちと、こっそり交換する約束を結んだこと。私たちは昔から、決められた道の外に、自分の道をつくるのが得意な子どもでした。

そんな私たちの青春は、コロナという大きな制約の中にありました。文化祭は、初めての緊急事態宣言のさなか。それでもオンラインを駆使して、心に残る一日をつくりました。修学旅行も、京都へは行けず、行き先は県内に。それでも、自分たちの手で新しい旅をつくりました。今になって思います。私たちは、できない理由の中で、できる形を自分でつくってきた世代なんだ、と。

さて、大人になるというのは、就職することでも、立派な肩書きを持つことでもないと私は思います。二十歳を迎えた私たちが手にしたのは、自分の人生を、自分で選び、自分で引き受けていく、その自由と責任です。この二つに、きちんと向き合える人のことを、大人というのではないでしょうか。

では、そんな自由を手にした私は、どんな大人になりたいのか。答えはたったひとつ。「自分の人生は、自分でつくっていい」という感覚を忘れない大人です。社会を恐れて行動を制限するのではなく、目の前のことがらに対して「これをどう楽しもう？」とわくわくしながら、自分の手でつくり変えていく。そんな大人は、ありふれた毎日さえ、工夫と好奇心で満たすことができます。

思えば、私たちが子どもの頃から自然にやってきたこと。決められた道の外に抜け道を見つけ、ないものを工夫し、できない理由の中でも、できる形をつくること。あれは、正解のない世界を、自分の足で歩いていくための、確かな力です。

同級生のみなさん。進む道はそれぞれでも、自分の人生を自分の手でつくっていく、その力を、私たち全員が持っています。だからこれからも、私たちは、自分のなりたい大人になっていけるはずです。

そして私は、その姿を次の世代に見せられる大人でありたい。今日ここにいる大人の皆さんが、私たちにそうしてくださったように。

未熟な私たちですが、今日まで育ててくださったすべての方への感謝を胸に、これからも自分の人生を、自分の手でつくっていくことを、ここに誓います。今後とも温かいご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。以上をもちまして、新成人代表の挨拶とさせていただきます。本日は、誠にありがとうございました。

2組代表あいさつ　黒澤響冴さん



本日は、私たちのためにこのような盛大な式典を開催していただき、誠にありがとうございます。また、佐藤村長をはじめ、ご来賓の皆様、そして多くの方々のご尽力により、このかけがえのない節目の日を無事に迎えることができましたこと、心より感謝申し上げます。

小・中学生時代を振り返ると、無我夢中で何かを追いかけていた日々だったなと思います。学業では沢山の事を学び、休み時間は毎日ボールを蹴り、時には喧嘩をして気まずくなることもありました。本当に色々なことがあって、全てがかけがえのない思い出です。

ここからは、「どんな大人になりたいか」という今日のテーマに沿って、これまでの自分自身を振り返りながら、今の自分が考える理想な大人についてお話していきたいと思います。私は中学三年生の時、競輪選手になるという夢を持ち、それまで続けていたサッカーを辞め、自転車競技を始めました。高校では、飯田ＯＩＤＥ長姫高校で自転車同好会を作り、高体連の大会に出場しました。そして高校三年生では長野県大会で優勝し、夏のインターハイ、秋の国民体育大会にも出場することができました。

それらの結果を踏まえ、日本一の自転車競技部をもつ、日本大学に進学し、卒業後の競輪選手という目標を叶える為、今も日々練習に取り組んでいます。ここまで聞くと、順調に夢を追い続けてきたように感じるかもしれません。しかし、私にとっては、嬉しかった経験よりも、苦しくて辛い経験の方が圧倒的に多い日々でした。高校一・二年生の頃は、一人で行う練習に、部活動として活動する他の人達と比較して、孤独を感じたり、一人でやっていたからこそ、その練習量に勝手に満足して、全然成長できていなかった時期がありました。そして、高二の冬の進路を考え出す手前で、本気で自転車を辞めようと考えた１ヵ月がありました。それでも、諦めるのが怖かった私は、高校三年生の春の県大会で優勝できなかったらいさぎよく自転車を辞めようと決め、それまで長かった髪の毛を坊主にして、父の協力を得て、二人三脚で自転車に死に物狂いで毎日取り組みました。その結果、県大会で優勝することができ、今の自分を作り上げることができました。

自分のやりたいことを我慢し、その時に何をすべきかを考え、毎日の規律を守り続けたことが、初めて結果として報われた瞬間でした。物事は常にシンプルだと思います。目的があって、その為にやらなきゃいけないことがある。でもそれをさぼるとどうなるのか。目的は叶いません。だから行動する。とてもシンプルです。

周りと自分を比べたり、目の前の楽しさに流されたりすることもあります。だからこそ、何の為にそれをやっているのかを常に考え、集中することが大切だと思います。

私の場合はそれが自転車です。毎日決まった時間に起きて、今日すべきことを淡々とこなす。言葉にするとシンプルですが、それを続けることが難しい。

だからこそ私は、そのシンプルなことを当たり前にできる大人になりたいなと思っています。それが、今の私が考える「どんな大人になりたいか」という問いへの答えです。私の目標は競輪選手になることですが、最大の夢は、競輪界でトップの選手が履ける赤パンツというものを何年も履き続ける選手になって、両親を楽させてあげることです。大きな夢を語れば、多くの人に無理だよと言われるでしょう。それでも、これまでの自分を信じ、強い信念を持って、日々努力して参りたいと思います。

最後になりましたが、まだ未熟な私達です。今後とも温かいご指導とご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。以上をもちまして、代表の挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

実行委員長 大平快斗さん



本日は、このような素晴らしい式典を開催していただき、誠にありがとうございます。

お忙しい中、佐藤村長をはじめ、ご来賓の皆様、恩師の方々にご臨席賜りましたことをとてもうれしく思います。

さて、私たちが中学校を卒業したのは２０２１年。今から５年前です。当時は、新型コロナウイルスが流行し、自分たちがやりたいことや今まで通りの学校生活を送ることができず、とても大変だったことを覚えています。しかし、ただ辛く、大変だっただけではなく、先生方をはじめとする多くの方々の協力のもと、自分たちで考え、工夫し、制限された中でも楽しい思い出を作ることができました。それができたのも、この仲間たちがいてくれたからだと私は思います。

そんな私たちですが、今、２０歳という大きな節目を迎え、成人の一人として歩んでいきます。今までは自分たちが支えてもらう立場でしたが、これからは自分たちが誰かを支える立場となり、両親をはじめとする、今まで支えてくださった多くの方々への感謝を忘れず、自覚と責任を持った大人として、日々成長していきたいと思います。

最後になりましたが、私たちのことを温かく見守り、支えてくださったすべての方に心から感謝申し上げ、実行委員長の挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

令和８年度 第19回 武田信玄狼煙リレーが実施されました

8/29(土)実施

第19回目の信玄狼煙（のろし）上げが、加々須の茶臼山と富田の城山で行われました。当日は、天候が心配されましたが、ちょうど雨間となり準備から実施・片付けまで順調にできました。しかし、阿智村や飯田市方面は霧や雲がかかり、見通しがききませんでしたので、設定された時刻に点火し次につなぐこととなりました。今回は、根羽村の杣路峠から塩尻市へ、そして諏訪、富士見、甲府へとつないでいく壮大なものでしたが、伊那市までのリレーとなりました。

城山には子ども大人など62名が、茶臼山には32名と多くの方が見守る中での狼煙上げとなりました。



加々須茶臼山



富田城山





公民館文化部楽遊塾

川遊び体験

7/18(土) 開催

今年も、夏恒例の公民館楽遊塾が7月開催され、保護者の方と子ども達40名の皆さんが参加してくださいました。お天気が心配でしたが、皆さんの行いが良かったようで、適度に晴れて暑すぎず、魚つかみにはちょうど良い気候でした。今年の魚は、なかなか活きが良くて、捕まえるのに苦労している子もいましたが、何度も参加しているベテランの高学年の子が手伝ってくれたりして、全員2匹捕まえることが出来ました。中にはどうしても自分で捕まえたくて頑張った子も。捕まえたときの誇らしげな顔が印象的でした。

次は捕った魚を慣れない手つきで、頑張ってさばいていました。さぁ、ここからは氏乗ボランティアの方々の出番です。手慣れた様子で串を刺し、炭火でじっくり焼いてくれました。まぁこの魚のおいしいこと！それだけではない。地元でとれたあまべえというもろこしもボランティアの高校生が炭火で焼いてくれ、みんな口元を汚しながらしっかりかぶりついていました。その後は川遊びをして、しっかり楽しい1日が過ごせたようです。主催した文化部の私たちも、美味しくて楽しい1日が過ごせました。

また、来年もお目にかかりましょう！

【お子さんの感想】

・捕まえるのが楽しかった。
・2回目だけど貴重な体験ができた。
・こんなにたくさん集まるのは貴重だと思う。
・泳いだのが楽しかった。
・つかんだ時ぬるぬるした。

















第29回 椋文学夏期講座『若き日の椋鳩十とアルプスの画家セガンティーニ』 8月23日(日) 開催

8月23日（日）に第29回椋文学夏期講座を開催しました。前椋鳩十記念館・記念図書館長である菅沼利光氏をお招きし、「若き日の椋鳩十とアルプスの画家セガンティーニ」と題したご講演をいただきました。

今回の講演では、青年期の椋鳩十が、「セガンティーニの伝記」の読書体験を通して、何を感じ、何を得たのかについてお話をお聞きしました。具体的には、自然をテーマとして数々の名作を生みだした椋鳩十が、アルプスの画家セガンティーニからどのような影響を受けたのか、その絵画及び生涯から詳しくご説明いただきました。

故郷から見えるアルプスに特別な思いを抱き続けた椋鳩十。また、講演活動等で岡山県を通るたび、セガンティーニの作品がある大原美術館を訪ねた椋鳩十。この理由も含め、生涯にわたり椋鳩十の創作活動に影響を与える大きな存在であったことを知る機会となりました。

○参加された方の感想

・菅沼先生の講演にのめり込んでしまいました。とても良い講演でした。椋鳩十の生きざまに影響をあたえた人々との出会いがあった事がわかり、人との出会いが人生をかえることがわかりました。

・椋鳩十とセガンティーニの出会いから、セガンティーニの人物像やハイジの共通点を知ることができて、とても興味深かったです。

・椋鳩十という文学作家にたくさんの人が影響を与えてきたことを改めて感じました。長野県から鹿児島県に移り、どんなふうに長野県で過ごした日々を思い起こしていたのか、気になりました。今日は貴重なお話ありがとうございました。



講師　菅沼利光先生

第39回 椋鳩十夕やけ祭のお知らせ

日　時●令和8年11月29日（日）
13:00～　※記念講演は14:30～
場　所●福祉センター多目的ホール
講　師●鈴木　まもる　さん
演　題●「絵本と鳥の巣のふしぎ - 鳥の巣が教えてくれること」

クラブ・サークル紹介

スポーツクラブ ZUMBAサークル

①いつから活動していますか？　**去年7月から**
②いつ活動していますか？
毎週水曜日　19時30分～



たかぎスポーツクラブで開講されているZUMBA（ズンバ）サークルはご存知でしょうか。ZUMBAはインストラクターの動きを見よう見まねで合わせ、「パーティー」な雰囲気で音楽に身を任せながら身体を動かすダンスフィットネスです。

取材に伺ったつもりが、いつのまにか一緒にダンス！1曲終わるとまた次の曲と休憩を挟みつつも絶え間なく踊り続けます。結構ハードに感じましたがいい汗をかきました。インストラクターの動きを真似ればよいのでダンス未経験者も普段運動しない人でも安心して始められそうです！

まだ定員に空きがあるそうです！あなたもLet's Dancing??





微笑（ほほえ）みと夕焼けと菩薩像

―資料館のお宝紹介②―

喬木村歴史民俗資料館長
青木　隆幸

「夕暮れは大きな書物だ　すべてがそこに書いてある」（谷川俊太郎）

阿島の町、逢橋（おうはし）のたもとに育ちました。権現山に沈む夕陽を、橋から眺めるのが好きでした。椋鳩十先生の生家はすぐ近く。先生も夕暮れが好きでした。幼い頃、美しい夕焼けにたくさん出会っていたからでしょう。「椋先生」よりも「彦穂少年」の方が、私には身近です。伊那谷の山は、高からず低からず、遠からず近からず。この絶妙な距離感の中に、刻々と色を変えながら沈んでいく夕陽は、見飽きません。



資料館のエントランスに菩薩像を据えました。作者は彫刻家成田青畔（なりたせいはん）（一九四一－二〇〇二）。奥さまが喬木村出身なのでご存知の方も多いでしょう。樺太出身。東京で活躍し、世界各地で個展を開いた後、晩年を高森町で創作に打ち込みました。彼もまた、伊那谷の夕暮れに心奪われた一人です。

「（日が沈み）西の峰々の稜線が、薄明るい空をバックに、黒くくっきりと映し出される。夫は、その色を見て、「黒い色の中に、全ての色が観える。この色が〝玄〟なんだろうな。この〝玄〟を表わす作品を創りたい」（成田夕紀子『夫、成田青畔』）

エントランスの菩薩像、穏やかな笑みを浮かべています。これが青畔さんのいう〝玄〟なのか、私には分かりませんが、当館を訪れるこどもたちの笑顔は、この菩薩そっくりです。

四月から、「道、交流、体験」をコンセプトに展示のリニューアルを進めています。大きく長い旅の途上で、あるいは旅の終わりで、伊那谷の自然や歴史に出会った人たちの作品を取り上げようとしています。その意味でこの菩薩像は、当館が目指す北極星。みなさんを迎えるエントランスにふさわしい作品だと思いました。

もう一つ。当館は、一万年という時間と、人々の交流の痕跡（こんせき）が刻まれた縄文の土器や石器を多数所蔵しています。実際に持って、重さや厚みを体感してもらいます。そして、見学の終わりは「縄文の丘」紹介。ここも夕焼けが美しい。シンガポールから来た若者たちは「縄文のかたまりだ」と目を輝かせていました。

人は誰も、その人だけの「夕暮れ」と「書物」を持っています。展示品や解説を通して、「書物」をひもとくお手伝いができればと願っています。

スポーツ等激励会・報告会

下記のとおり地方大会を勝ち進み、全国大会への出場を果たされた皆様に激励会・報告会を行いました。

剣道　筒井　創也さん



第52回長野県道場少年剣道大会（4／26）にて筒井創也さん（喬木第一小6年・伊久間・喬木剣道クラブ所属）が先鋒で出場した慈恩館道場が団体の部で優勝され、7月27日に日本武道館で開催された第60回記念全国道場少年剣道大会に出場。

水泳　喬木中学校水泳部



喬木中学校水泳部が、第65回長野県中学校総合体育大会夏季大会水泳競技大会にて優勝・入賞され、8月8日、富山県で開かれた第47回北信越中学校総合競技大会の水泳競技に出場し、大会の結果報告をしました。役場を訪問したのは市瀬捺さん、大原未来さん、牧内莉玖さん、湯澤心美さんの4名。出場者の内、湯澤さんは所属するスイミングクラブで第49回全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会に出場。

陸上　牧内　宇龍さん



5月の長野県高等学校総合体育大会　陸上競技大会において牧内宇龍さん（上伊那農業高校3年）が3000m障害で3位入賞を果たし、8月に滋賀県で開催された第79回全国高等学校総合体育大会（インターハイ）に出場。

たかぎ短歌会　葉月歌会　詠草

介護士は回復みごとと褒めくるるも体力つかず実感は無し　田中　妙子
七夕のデイサービスにて短冊に願い事書くうからの幸　和田　京子
夕暮れに月下美人の花開き白き大輪夜を彩る　内山　貴子
チョキチョキと八十路の庭師松の上汗も拭わず軽やかな音　小椋　りよ
介護所の壁の「紫陽花」模様変え「ひまわり」となり夏は酣　木林　睦枝
亡夫愛でし山小屋に今年も来て見れば山百合の香の甘く漂う　木下　寿子
彼方ではお腹は空いていませんか位牌堂にて御先祖様に　市瀬　准子
夏来れば父の遺した想い出は大きなスイカと真っ赤なトマト　内山　和子
目的のないままスマホをスクロール時間泥棒白昼に現る　塩澤真由美
朝あさに鶯　鶺鴒　雉の声この地に生くるを幸せと思ふ　元島　康子
むくむくと肥えたる手足よく動く玉の曾孫に視線集まる　知久　美子
春風のごと笑顔せる「敬の宮」「男系男子」如何にも旧い　福澤　亀人

喬木村俳句会　葉月句会　詠草

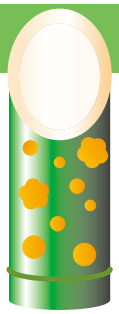
駆け上がる葭簀の道や青き海　森　美知子
吊り旗やすっと汗引く夏氷　伊藤こふみ
父遺す千人針や終戦日　木下　瑞恵
山間に蜩の声墓参り　矢澤恵美子
汗拭ふ蛇口の水も猛暑なり　松島みのり
吾子笑むや一味違ふ瓶ジュース　宮島　高枝
生れ来て思い出いくつ蛍草　村山たか子
しゃがみ込む木々の日陰や草むしり　松葉　孝子
狂い咲く躑躅の花に触るる指　市橋　ヨリ
虫の声指先弾む鎌の音　吉川てる子
送り火や茄子馬に乗り帰りけり
千羽鶴夜行バス乗り広島忌
映像で孫に伝えし終戦日
得点表歓声残し秋の風
頭上から閻魔が睨む炎暑かな
隊長の髭は八文字ねこじゃらし
岩清水高々響く子らの声
三味の音や浴衣の袖の香の揺らぎ
僧逝きて夕蝉に和す読経かな
あの夜の灯り身に沁む反戦忌

「竹の恵みを楽しむ、竹文化体験事業」

公民館自主企画講座の紹介

地域資源である竹の活用を目指して!

地元の竹を使って、切り出しから加工、竹灯籠づくりや流しそうめん体験まで楽しむイベントを開催!手づくりの竹灯籠は「曙月庵×阿島傘」イベントで飾ります。竹の利活用について楽しく学びましょう!(流しそうめん体験は8月に実施済)



【竹灯籠づくり製作会スケジュール】

9/26（土）11:00～18:00
会場：喬木まつり会場内ワークショップ

10/4（日）9:00～12:00
会場：PERCH

10/16(金)-18(日)「曙月庵×阿島傘」イベント
完成した竹灯籠が曙月庵をやさしく灯します。

申込フォーム

1日のみの参加もok
どなたでも参加ok
参加費は無料

あのとき　このとき

公民館長



「喉もと過ぎれば熱さ忘れる」人から受けた恩義をわすれてはならない、という教訓ではあるが、言葉通りの意味で言えば、今年の7月の気温の高さと言ったら相当なものであった。しかし、今となってはあの時の暑さを忘れてしまっている。

8月始め、朝起きて一階に降りると涼しさを感じた。温度計はなんと30度を示す。体の慣れ、とは恐ろしいものだ。さらに気温25度以上となる日の「夏日」の言葉は夏に聞かれなくなり、「酷暑日」が普段使いとなる日が、そう遠くないのでは・・と感じたほど。「40度以上　今年延べ34地点・最多」

これは、先月4日の新聞記事。昨年は30地点だったので、やや増加している。高冷地の長野県でも、飯田市南信濃で39・5度。飯田市で38・4度と、統計開始以来最高を記録した。一方、月降水量は軒並みの減少で、特に東信では昨年比30％。

多摩動物公園では、ライオン16頭のうち3頭が全身の脱水や多臓器不全で死んでしまった。都は暑さの影響と考えている。サハラ砂漠以南で生きており暑さに強いとされていたのに、だ。

ヨーロッパでは熱波が来てあの大河のドナウ川の水量が減り、ルーマニアやベルギーの原子力発電所が数台停止を余儀なくされた。また、山火事が多く発生したり、農業に使う水の不足も言われたりしている。

さて、こういう事態において私たちはこれから生きていく子供たちに何を残していけばよいか。まずは日常生活でできることを実行したい。

お知らせ

第36回喬木村駅伝大会 参加者募集！

日時：令和８年11月15日㈰
　　９時スタート
コース：南部防災センター
　　～芝グラウンド
　　７区間 10.8km
申込：９月16日㈬～10月30日㈭までに教育委員会窓口又は上記の二次元コードよりお申し込みください。
なお、詳細は村ホームページをご覧ください。

申し込みはこちらから

村HP

喬木村芸術祭

日時：令和８年11月3日㈫～11月8日㈰
場所：福祉センター他

信州プロレス in 喬木村

日時：令和８年11月１日（日）
　　開演 13:00 ～　（開場 12:30 ～）
場所：中央社会体育館
内容：信州ドリームツアー第35戦
　　喬木村大会（観戦無料）
特別ゲスト：長州小力

お問合せ　喬木村公民館　0265-33-2002

今回の表紙

題字
真浄寺書道会　下岡　優佳さん
（喬木中学校３年）



小学生の頃から書道を習っています。書道を続けて５年目になりますが、初めの頃と比べて字が上手になって嬉しいです。これからも頑張りたいです。

写真
喬木カメラクラブ　原　東彦さん



若い時から写真を撮ることが趣味でした。今回の写真は５年程前、自宅の裏から風越山の夕焼けが素晴らしかったのでノウゼンカズラと一緒に撮影しました。

ご意見・ご感想 お待ちしています

館報を読んで思ったこと、感想をお寄せください。寄稿も大歓迎です！
喬木村の公民館報をみんなで作っていきましょう！
☎ 0265-33-2002
mail：syakai@vill.takagi.lg.jp

編集後記

最近は、予想をはるかに超える降雨により、日本各地で水害が多発している。

河川などの水利構造物の整備計画では、設計段階で降雨強度や降雨確率を基に、地理的特性なども加味し、それらを検討している。

ところが、それらを上回る事態が発生しているのだ。防災・減災という考え方がある。我々は、100パーセントの安全は担保されないということを承知しておかなければならない。

自宅や会社など、それぞれの場所における災害に対する備えが必要である。

物的な備えのみならず、その場所の地理的特性などを学び、想定をしておくことが肝要である。自分事として考えよう。